



日産化学株式会社

2023年3月期 第2四半期決算説明会

説明者

取締役常務執行役員 CFO 大門秀樹

2022年11月11日

上期

前年同期比

- 売上高は、177億円増収(+19%)
- 営業利益は、69億円増益(+32%)
- 純利益は、74億円増益(+45%)
- **営業利益・経常利益・純利益は2年連続過去最高益を更新**

上期

業績予想比

(2022年8月発表予想との比較)

- 売上高は、41億円上ぶれ
- 営業利益は、6億円上ぶれ
- 純利益は、25億円上ぶれ

株主還元状況

- 中間配当 70円(前年比:20円増配)
- 自己株式取得 50億円完了(2022年5~6月、683千株)

業績予想の修正

- 2022年8月発表の通期業績予想を上方修正(p9参照)

| 4

大門：本日はご参加ありがとうございます。日産化学の大門でございます。

それでは、2022年度第2四半期連結決算報告を始めさせていただきます。

資料の4ページでございます。

まず、上期決算サマリーということで、上から前年同期比の数字がございます。

売上高は177億円の増収、プラス19%、営業利益は69億円の増益、プラス32%となりました。これに営業外損益が、円安により増益となりまして、純利益としましては、プラス45%の74億円の増益となりました。

結果、営業利益、経常利益、純利益は上期として2年連続過去最高益を更新となっております。

また、上期業績予想比でございますが、こちらは2022年8月の発表数値との比較になります。売上高は41億円のうぶれ、営業利益は6億円のうぶれ、これに先ほど申し上げました営業外損益のうぶれ等が加わりまして、純利益では25億円のうぶれとなっております。

株主還元でございますが、中間配当は70円とさせていただきます。これは前年比で20円増配でございます、数字自体は8月発表と変わっておりません。

また、自己株取得につきましては、上期の6月までに50億円の取得を完了済みでございます。

通期の業績予想の修正につきましては、後ほどご説明いたします。

2022年度上期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	465	453	918	583	512	1,095	+118 (+25%)	+59 (+13%)	+177 (+19%)
営業利益	119	94	213	173	109	282	+54 (+45%)	+15 (+15%)	+69 (+32%)
営業外損益	4	6	10	22	16	38	+18	+10	+28
経常利益	123	100	223	195	125	320	+72 (+58%)	+25 (+26%)	+97 (+44%)
特別損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
純利益 ^{※1}	88	75	163	139	98	237	+51 (+57%)	+23 (+32%)	+74 (+45%)
EBITDA ^{※2}	142	118	260	197	136	333	+55	+18	+73
EPS(円/株)	61.73	52.21	113.94	98.13	69.61	167.74	+36.40	+17.40	+53.80
配当(円/株)	-	-	50	-	-	70	-	-	+20
配当総額	-	-	71	-	-	99	-	-	+28
売上高営業利益率	25.5%	20.9%	23.2%	29.6%	21.3%	25.7%	+4.1pt	+0.4pt	+2.5pt
為替レート(円/ドル)	110	110	110	130	138	134	-	-	-
原油(JCC)(^{ドル} /bbl) ^{※3}	67	73	70	111	113	112	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 5

5 ページ、具体的な数字でございます。

こちらは上期の前年同期比の数字を、1Q、2Qに分けてお示ししております。真ん中のブルーの上期の行ですが、営業利益で282億円、営業外損益では38億円で、上期の前年同期比では28億円と大幅な増益となっております。主要因は為替の換算差益でございます。経常利益320億円、純利益は237億円でございます。

なお、為替レートの結果としましては、期中上期134円でございます。前年同期比で申し上げますと24円ほどドル高円安になっております。

また、3月末、9月末で見ますと、ここには記載ございませんが、2022年3月末は122円。それに対しまして、この9月末は145円ということで、ここでも約23円ドル高円安になっております。

また、原油、JCCでございますが、上期の実績数字でバレルあたり112ドルでございます。前年同期比では40ドル強のコストアップということになります。

2022年度上期決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 実績			業績予想比
	1Q 実績	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q・上期
売上高	583	471	1,054	583	512	1,095	+41
営業利益	173	103	276	173	109	282	+6
営業外損益	22	-3	19	22	16	38	+19
経常利益	195	100	295	195	125	320	+25
特別損益	0	0	0	0	0	0	0
純利益 ^{※1}	139	73	212	139	98	237	+25
EBITDA ^{※2}	197	131	328	197	136	333	+5
EPS(円/株)	98.13	51.99	150.12	98.13	69.61	167.74	+17.62
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	0
配当総額	-	-	99	-	-	99	0
売上高営業利益率	29.6%	21.9%	26.2%	29.6%	21.3%	25.7%	-
為替レート(円/ドル)	130	115	115	130	138	134	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	111	88	88	111	113	112	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 6

続きまして、6 ページでございます。こちらは上期の業績予想比ということで、先ほど申し上げましたように左側グレーの部分、こちらが8月の予想値でございますので、右端の列の通り、2Qの予想比イコール上期の予想比になります。

売上高では41億円の上ぶれ、営業利益では6億円の上ぶれ、純利益では25億円の上ぶれでございます。

なお、為替レートにつきましては、下の行にございます通り、この8月発表上期予想は115円でございますが、実際は134円になりました。

また、原油につきましても、88ドルという想定に対しまして、112ドルとなっております。

		2022年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	業績予想(2022年8月発表)	業績予想比
		282 億円	213 億円	+69 億円(+32%)	276 億円	+6 億円
上期	化学品	前年同期比	-1億円	原燃料高・運送費高騰・固定費増加により減益		
		業績予想比	4億円下ぶれ	原燃料高により利益下ぶれ		
	機能性材料	前年同期比	+8億円	半導体増収		
		業績予想比	3億円下ぶれ	ディスプレイ下ぶれ		
	農業化学品	前年同期比	+52億円	主要製品の販売好調、一部出荷時期のずれ等で増収		
		業績予想比	15億円上ぶれ	主要製品の販売好調、一部出荷時期のずれ等で上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比	+1億円	リバロ増収		
		業績予想比	2億円上ぶれ	リバロ上ぶれ		

次に、7 ページでございます。上期営業利益のセグメント別の増減分析でございます。こちらは前年同期および8月業績予想との差を、それぞれお示ししております。

まず、化学品でございますが、前年同期比では1億円の減益。原料高、それから運送費の高騰、加えて固定費の増加等もございまして、若干の減益となりました。

一方、業績予想比でも4億円下ぶれでございます。同様に原燃料高による利益の下ぶれがございます。

それから機能性材料でございますが、こちら前年同期比では営業利益で8億円の増益。半導体の増収が大きく寄与し、ディスプレイの減収はございましたが、それを上回ってカバーした結果でございます。

業績予想比では3億円の下ぶれで、こちらはディスプレイの下ぶれが効いております。

農業化学品でございますが、前年同期比で52億円の大幅な増益となりました。一部出荷等の期ずれもございますが、全般的にはほぼ全ての製品で好調でございました。

また、業績予想比につきましても、同様の理由で15億円のうぶれでございます。

ヘルスケアでございますが、前年同期比で1億円の増益、業績予想比では2億円の上ぶれでございました。

2022年度通期 業績予想サマリー



通期業績予想を上方修正(2022年度通期営業利益:555億円)

上期の実績および下期の見通しを踏まえ、前回発表予想を修正

通期	前年同期比
----	-------

- 売上高は262億円増収(+13%)
- 営業利益は45億円増益(+9%)、純利益は33億円増益(+9%)
- 営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新
- ROE予想は19.7%

通期	前回業績予想比 (2022年8月発表予想との比較)
----	------------------------------

- 売上高は109億円上ぶれ
- 営業利益は4億円上ぶれ、純利益は4億円上ぶれ

下期	前回業績予想比 (2022年8月発表予想との比較)
----	------------------------------

- 売上高は68億円上ぶれ
- 営業利益は2億円下ぶれ、純利益は21億円下ぶれ

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%(2022年5月発表から変更なし)
- 自己株式取得50億円完了(取得期間:2022年5~6月)
- 年間配当は前回予想162円から164円に増額(期末2円増額)

配当	通期164円 中間70円、期末94円、配当性向54.9% 【前年比】中間20円増配、期末22円増配 【2022年8月発表予想比】中間予想通り、期末2円増配
自己株式取得	50億円、683千株取得済(取得期間:2022年5~6月)(2021年度実績 120億円、2,033千株)
自己株式売却	1.7百万株売却済(2022年5月、8月)
総還元性向目標	75%(配当164円と自己株式取得50億円に基づけば66.8%)

| 9

続きまして、通期の業績予想でございます。9ページをご覧ください。

通期業績予想は、上方修正でございます。2022年度営業利益、年間では555億円を想定しております。これは上期の実績、および下期の見通しを踏まえた結果、修正をしたということでございます。

まず、通期の前年同期比でございますが、売上高262億円の増収、プラス13%。営業利益は45億円の増益、プラス9%。純利益も33億円の増益、プラス9%を想定いたします。この結果、営業利益、経常利益は9年連続、純利益につきましては10年連続、過去最高益更新を想定しております。

また、ROEにつきましては、2022年5月発表の中計目標は18%以上でございましたが、今回は19.7%という数字を想定しております。

真ん中は8月の業績予想との対比でございます。売上高で109億円の上ぶれ、営業利益および純利益につきましてはそれぞれ4億円の上ぶれとなります。

さらに下期でございますが、こちらは前回の8月発表業績予想比ということで、少しコメントしております。売上高では68億円の上ぶれでございますが、営業利益では2億円の下ぶれ、また純利益では21億円の下ぶれとなります。

下期は、営業外損益のところ、主として為替差損益が費用サイドに出るという想定で13億円の
下ぶれでございます。

株主還元でございますが、中計目標に基づきまして、総還元性向75%、配当性向55%が目標です。こちらは5月期初の発表から変更はございません。

従いまして、青字の部分でございますが、純利益の上方修正に伴いまして、年間配当を前回の162円から164円に増額といたします。期末部分で、予想から2円増額です。

内訳は、中間で70円、期末94円でございます。前年同期比で見ますと、年間では42円増配、うち中間で20円、期末22円の増配となります。

総還元性向目標でございますが、配当164円というところが55%に相当しますので、この6月に終了しております自己株取得50億円に基づきますと、現時点では66.8%の総還元性向となります。

2022年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2022年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	918	495	667	1,162	2,080	1,095	497	750	1,247	2,342	+177 (+19%)	+2 (0%)	+83 (+13%)	+85 (+7%)	+262 (+13%)
営業利益	213	126	171	297	510	282	99	174	273	555	+69 (+32%)	-27 (-21%)	+3 (+2%)	-24 (-8%)	+45 (+9%)
営業外損益	10	9	8	17	27	38	-1	-9	-10	28	+28	-10	-17	-27	+1
経常利益	223	135	179	314	537	320	98	165	263	583	+97 (+44%)	-37 (-27%)	-14 (-8%)	-51 (-16%)	+46 (+9%)
特別損益	0	2	3	5	5	0	0	0	0	0	0	-2	-3	-5	-5
純利益 ^{※1}	163	93	132	225	388	237	71	113	184	421	+74 (+45%)	-22 (-24%)	-19 (-14%)	-41 (-18%)	+33 (+9%)
EBITDA ^{※2}	260	152	200	352	612	333	-	-	337	670	+73	-	-	-15	+58
EPS(円/株)	113.94	65.64	92.30	157.94	271.88	167.74	-	-	130.85	298.59	+53.80	-	-	-27.09	+26.71
配当(円/株)	50	-	-	72	122	70	-	-	94	164	+20	-	-	+22	+42
配当性向(%)	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	54.9%	-	-	-	-	+10.0pt
配当総額	71	-	-	102	173	99	-	-	132	231	+28	-	-	+30	+58
売上高営業利益率	23.2%	25.5%	25.5%	25.5%	24.5%	25.7%	19.9%	23.2%	21.9%	23.7%	+2.5pt	-5.6pt	-2.3pt	-3.6pt	-0.8pt
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	19.7%	-	-	-	-	+0.5pt
為替レート(円/%)	110	114	116	115	112	134	135	135	135	135	-	-	-	-	-
原油(JCC)(%) ^{※3}	70	80	86	83	77	112	110	110	110	110	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 10

続きまして 10 ページ、具体的な数字でございます。こちらは 3Q、4Q の予想値も含めまして開示をしております。

まず、前年同期比でございます。真ん中のブルーの列、こちらがこの 11 月の新しい予想でございます。

上から数字を見ていきますと、年間で営業利益 555 億円、営業外損益で 28 億円を受けまして、経常利益で 583 億円、当期純利益は 421 億円となります。

下にある為替レートでございますが、この下期につきましては 1 ドル 135 円を想定しております。

また、原油の JCC につきましては、バレルあたり 110 ドルで、上期とほぼ変わらない数字となっております。

2022年度業績予想サマリー 前回業績予想比



(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	1,054	1,179	2,233	1,095	1,247	2,342	+41	+68	+109
営業利益	276	275	551	282	273	555	+6	-2	+4
営業外損益	19	3	22	38	-10	28	+19	-13	+6
経常利益	295	278	573	320	263	583	+25	-15	+10
特別損益	0	5	5	0	0	0	0	-5	-5
純利益 ^{※1}	212	205	417	237	184	421	+25	-21	+4
EBITDA ^{※2}	328	339	667	333	337	670	+5	-2	+3
EPS(円/株)	150.12	145.71	295.83	167.74	130.85	298.59	+17.62	-14.86	+2.76
配当(円/株)	70	92	162	70	94	164	0	+2	+2
配当性向(%)	-	-	54.8%	-	-	54.9%	-	-	+0.1pt
配当総額	99	129	228	99	132	231	0	+3	+3
売上高営業利益率	26.2%	23.3%	24.7%	25.7%	21.9%	23.7%	-0.5pt	-1.4pt	-1.0pt
ROE	-	-	19.6%	-	-	19.7%	-	-	+0.1pt
為替レート(円/%)	115	115	115	134	135	135	-	-	-
原油(JCC)(\$/bbl) ^{※3}	88	88	88	112	110	110	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 11

続きまして 11 ページ、こちらは前回の業績予想比、すなわち 8 月発表数字との差でございます。5 月に年初予想値を出させていただいておりますが、その比較ではございませんので、ご留意ください。

数字としましては、特に一番右の列から2番目、下期でございますが、先ほど申し上げました通り、業績予想比では営業利益で2億円、営業外損益では13億円の下ぶれということで、結果、経常利益では15億円の下ぶれです。

また、特別損益につきましては、この下期は見直しまして、特に特別利益等ございませんので、5億円の下ぶれ。したがって、純利益は21億円の下ぶれとなります。

営業利益の増減分析



	2022年度 予想 (2022年11月発表)	2021年度 実績	前年同期比	前回予想(2022年8月発表)	前回業績予想比
	273 億円	297 億円	-24 億円(-8%)	275 億円	-2 億円
下期	化学品	前年同期比 -12億円	原燃料高・運送費高騰・固定費増加により減益	業績予想比 6億円上ぶれ	販売価格上昇により利益上ぶれ
	機能性材料	前年同期比 +19億円	半導体増収(機能性材料合計で固定費増加15億円あり)	業績予想比 4億円上ぶれ	半導体上ぶれ
	農業化学品	前年同期比 -14億円	固定費等増加(10億円)等により減益	業績予想比 2億円下ぶれ	固定費等の上ぶれ(減益要因)により利益下ぶれ
	ヘルスケア	前年同期比 -1億円	ファインテック固定費等増加により減益	業績予想比 3億円上ぶれ	ファインテック上ぶれ
		2022年度 予想 (2022年11月発表)	2021年度 実績	前年同期比	
通期	555 億円	510 億円	+45 億円(+9%)		
	化学品	前年同期比 -13億円	原燃料高・運送費高騰・固定費増加により減益		
	機能性材料	前年同期比 +27億円	半導体増収		
	農業化学品	前年同期比 +38億円	主要製品の販売好調で増収		
	ヘルスケア	前年同期比 横ばい			

| 12

セグメント別では12ページをご覧ください。まず、上段に下期の数字がございます。こちらは前年同期比および業績予想比と二つ掲げてございます。

化学品でございますが、前年同期比では12億円の減益を想定します。やはり原燃料高、運送費高騰、それから固定費の増加で減益。また加えまして、前期2021年度下期につきましては、メラミンの市況が非常に良かったことと、それに対しまして、この下期はメラミンの販売が終盤に近づいてくるということもございます。

業績予想比では6億円の上ぶれ。販売価格の上昇によりまして、利益が上ぶれるということとなります。

続きまして、機能性材料でございます。前年同期比では19億円の増益。こちらは半導体増収を主な要因としております。機能性材料全体で、固定費の増加15億円もこの中に費用サイドとしてございます。

また、業績予想比につきましては4億円の増でございます。

続きまして、農業化学品、こちら前年同期比で14億円の減益を想定いたします。ここに少しコメントがございますように、固定費の増加10億円も効いております。また、業績予想比では2億円の増で、固定費等の増が減益要因でございます。

ヘルスケアにつきましては、前年同期比では若干の減益ですが、業績予想比では3億円の増となります。また、通期はその下に前年比ということで書いております。

年間では、化学品で13億円の減益。機能性材料では27億円の増益。こちらはディスプレイの減益を半導体の増益でカバーするということでございます。

農業化学品は、38億円の大幅な増益、ヘルスケアは横ばいでございます。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比



(億円)

	2021年度 実績		2022年度 予想 (2022年11月発表)		前年同期比	
	上期	年間	上期実績	年間	上期	年間
営業外収益	13.6	38.2	44.3	43.0	+30.7	+4.8
受取利息・配当金	3.2	8.2	4.5	11.1	+1.3	+2.9
為替差益	1.0	11.3	30.2	9.8	+29.2	-1.5
持分法投資損益 他	9.4	18.7	9.6	22.1	+0.2	+3.4
営業外費用	4.2	10.9	6.0	15.0	+1.8	+4.1
支払利息	0.5	0.7	0.9	2.3	+0.4	+1.6
為替差損	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
固定資産処分損 他	3.7	10.2	5.1	12.7	+1.4	+2.5
営業外損益	9.4	27.3	38.3	28.0	+28.9	+0.7
特別利益	28.2	33.7	0.0	0.0	-28.2	-33.7
特別損失	27.9	29.0	0.0	0.0	-27.9	-29.0
特別損益※1	0.3	4.7	0.0	0.0	-0.3	-4.7

※1 2021年度年間実績:

特別利益+33.7億円(有価証券売却益33.7億円・売却額43.3億円、9銘柄(うち3銘柄保有全株数売却)、非上場株を含む)

特別損失-29.0億円(メラミン構造改善費用17.9億円、日本燐酸設備撤去費用6.3億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損4.8億円)

※日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売。燐酸液の製造停止決定に伴い、出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

続きまして、営業外損益、特損の内訳につきまして、13 ページ、14 ページでご説明いたします。

まず 13 ページですが、こちらは前年同期比の数字でございます。

上期と年間の数字になっておりまして、下期だけの数字はございませんが、年間から上期実績を引いていただくと、下期が出るということございまして、ここで為替差益というところが上から 3 行目にございます。この数字が下期ではマイナス 20 億円ということを想定いたします。

これは先ほど申し上げましたように、上期に急激なドル高円安を受け大幅なプラスとなったわけでございますが、一方、9 月末 145 円からこの下期は平均で 135 円を想定しております。それだけ逆に円高になるという想定で、約 20 億円の為替差損、これを織り込んだ結果でございます。

また、足元のぶれ幅の非常に大きい為替市場も念頭に置いているということもございます。

営業外損益・特別損益の内訳 前回業績予想比



(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月作成)		2022年度 予想 (2022年11月発表)		前回業績予想比	
	上期	年間	上期実績	年間	上期	年間
営業外収益	27.6	36.6	44.3	43.0	+16.7	+6.4
受取利息・配当金	3.9	7.6	4.5	11.1	+0.6	+3.5
為替差益	16.9	16.9	30.2	9.8	+13.3	-7.1
持分法投資損益 他	6.8	12.1	9.6	22.1	+2.8	+10.0
営業外費用	8.3	15.0	6.0	15.0	-2.3	0.0
支払利息	0.6	0.9	0.9	2.3	+0.3	+1.4
為替差損	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
固定資産処分損 他	7.7	14.1	5.1	12.7	-2.6	-1.4
営業外損益	19.3	21.6	38.3	28.0	+19.0	+6.4
特別利益	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	-5.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※1	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	-5.0

※1 2022年度年間予想(2022年8月作成): 有価証券売却益5.0億円

| 14

14 ページにつきましては、業績予想比でございまして、今申し上げたような数字がこちらで載っております。

特別損益につきましては、先ほど申し上げましたように、一番右下、業績予想比で年間 5 億円の下のぶれでございます。

キャッシュ・フロー

2022年度年間予想のフリー・キャッシュ・フローは222億円、前年同期比73億円の減少

(億円)

	2021年度 実績		2022年度 予想 (2022年11月発表)		前年同期比	2022年度 年間予想 (2022年5月発表)
	上期	年間	上期実績	年間	年間	
営業活動によるキャッシュ・フロー	338	419	433	454	+35	433
税金等調整前純利益	223	542	320	583	+41	546
特別損益(マイナスは益)	0	-5	0	0	+5	-5
減価償却費※1	47	102	51	115	+13	116
法人税等の支払	-74	-132	-85	-143	-11	-137
運転資金増減他	142	-88	147	-101	-13	-87
投資活動によるキャッシュ・フロー	-61	-124	-96	-232	-108	-212
設備投資	-53	-113	-84	-211	-98	-201
投資有価証券購入・売却	34	41	-5	-5	-46	10
その他	-42	-52	-7	-16	+36	-21
フリー・キャッシュ・フロー	277	295	337	222	-73	221
財務活動によるキャッシュ・フロー	-316	-278	-292	-250	+28	-275
株主還元(配当)	-83	-155	-102	-291	-16	-275
株主還元(自己株式取得)	-70	-120	-50			
借入金増減	-162	-3	-139	41	+44	0
その他	-1	0	-1	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-1	6	16	0	-6	0
現金及び現金同等物の増減額	-40	23	61	-28	-51	-54
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	0	0	31	31	+31	17
現金及び現金同等物の残高	284	347	439	350	+3	310

※1 のれん償却費を含む

15

15 ページはキャッシュ・フローでございます。真ん中ブルーのところは上期実績、それからその右に年間の予想をお示ししております。

上期実績は、昨年の上期とほとんど変わらないということでございます。年間は、フリー・キャッシュ・フローが前年同期比で若干減少いたしますが、設備投資等のキャッシュアウトが少し増えるという結果もでございます。

一方、現預金の残高としましては、最終行 350 億円で、従来同様、余裕のあるキャッシュ・フローということで見ております。

また、こちらの数字は、一番右の端にございます、グレーの5月発表値の年間予想からほとんど変わっていないということでございます。

貸借対照表

(億円)

	2021年9月末	2022年3月末	2022年9月末	前期末比
流動資産	1,423	1,753	1,718	-35
現預金	284	347	439	+92
売上債権	558	800	608	-192
たな卸資産	520	522	588	+66
その他	61	84	83	-1
固定資産	1,051	1,044	1,084	+40
有形固定資産	510	532	607	+75
無形固定資産	121	118	118	0
投資有価証券	321	302	299	-3
その他	99	92	60	-32
資産合計	2,474	2,797	2,802	+5

	2021年9月末	2022年3月末	2022年9月末	前期末比
負債	500	717	608	-109
買入債務	160	190	190	0
借入金	65	227	97	-130
その他	275	300	321	+21
純資産	1,974	2,080	2,194	+114
株主資本 ^{※2}	1,863	1,967	2,053	+86
その他有価証券評価差額金	91	83	87	+4
為替換算調整勘定	-2	9	19	+10
非支配株主持分	18	21	31	+10
退職給付に係る調整累計額	4	0	4	+4
負債純資産合計	2,474	2,797	2,802	+5

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年9月末	2022年3月末	2022年9月末	前期末比
上場株式 ^{※1} (単体ベース保有銘柄数)	204 (30)	189 (30)	193 (30)	+4 (0)
非上場株式	28	26	32	+6
関係会社株式	89	87	74	-7
合計	321	302	299	-3

純資産に占める 政策保有株式の割合 ^{※4}	10.6%	9.5%	9.5%
------------------------------------	-------	------	------

自己資本比率	79.1%	73.6%	77.2%
D/Eレシオ ^{※3}	-11.7%	-6.1%	-16.7%

※1 22/3末 189 + 取得0 + 売却・評価差額⁴ = 22/9末 193

※2 株主資本増減 +86 = 純利益237 - 配当その他151

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)
各期の政策保有株式(単体、億円)は、21/9末 209、22/3末 198、22/9末 207

| 16

続きまして、16 ページ、バランスシートでございます。

簡単に申し上げますと、左側の上、資産合計につきましてはトータルでこの3月末対比ではほぼ変わりませんが、売上債権の減少が少し目立っております。例年同様、上期というのは農薬関係の売上債権回収がございまして、これを反映しております。

それに合わせまして、右側の借入金、こちら合わせて返済をしているという数字が載っております。

自己資本比率は、右下にございます通り 77.2%で、引き続き非常に高い比率でございます。

なお、投資有価証券でございますが、左下にございますように 2022 年 3 月末比ではほとんど変動はございません。

また、純資産に占めます、単体ベース政策保有株式の割合は、10%を切る 9.5%という数字で、こちらも 2022 年 3 月末と変動ございません。

セグメント別 設備投資額・減価償却費・研究開発費

研究開発費は2020-21年度減少傾向にあったものの、2022年度は回復を見込む

(億円)

	設備投資※1						減価償却※2						研究開発費					
	2018	2019	2020	2021	2022予 (5月発表)	2022予 (11月発表)	2018	2019	2020	2021	2022予 (5月発表)	2022予 (11月発表)	2018	2019	2020	2021	2022予 (5月発表)	2022予 (11月発表)
化学品	20	31	49	23	39	41	18	19	22	25	26	26	6	4	3	3	4	3
機能性材料※3	33	33	32	58	83	90	60	52	45	39	47	47	82	77	70	70	78	73
農業化学品※4	33	79	64	15	41	58	17	23	26	27	30	29	45	46	44	42	45	44
ヘルスケア※5	5	6	5	5	5	4	6	6	5	4	4	4	25	25	24	6	7	6
卸売	1	1	1	0	3	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	7	7	7	9	12	12	7	4	5	6	6	6	20	20	24	39	40	42
合計	99	157	158	110	183	206	109	105	104	102	114	113	178	172	165	160	174	168

※1 設備投資額

・実績：検収ベース
・予想：稼働開始ベース
(一部、検収ベース)

※2 減価償却法

・サンエパー、ARC®、多層材料：4年定率(初年度50%を償却)
・その他製品：8年定率(初年度25%を償却)

※3 2022年予想(2022年11月発表) NCK新工場(29億円・検収ベース)を含む

※4 2019年フィンテック買収(63億円)、2020年ダイセン買収(54億円)、
2022年予想(2022年11月発表) NBR 第1期工事(44億円・検収ベース)を含む

※5 2022年4月に組織改定を実施。2017-21数字は旧医薬品セグメント(p82,p84参照)

半導体材料に関する主要な設備投資額※6

半導体の微細化進行に沿って評価機器・開発設備・生産設備に重点的に投資

(億円)

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022予想 (11月発表)
11	56	40	4	4	2	15	4	37

※6 主要な設備投資額：承認ベース

| 17

次、17 ページ、セグメント別の設備投資等でございます。

2022年5月に発表した数字からほとんど変わってはおりません。

一番右側の列、研究開発費でございますが今期予想は168億円で、対売上高比率で7.2%という数字となっております。

主要な設備投資※1一覧

(億円)

2019年度 実績		2020年度 実績		2021年度 実績		2022年度 予想 (11月発表)	
項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
シアヌル酸※2増強	19	材料研(機器)	14	農薬(製造設備)	43	NBR 農薬※3 (製造設備)	44
物質研(機器)	7	デジタル関連	11	デジタル関連	13	NCK 半導体※4 (製造設備)	29
材料研(機器)	6	農薬(製造設備)	9	物質研(機器)	7	デジタル関連	21
DP(製造設備)	5	半導体分析機器	8	材料研(機器)	5	物質研(機器)	9
生物科学研(機器)	3	物質研(機器)	7	DP(製造設備)	3	材料研(機器)	8
テビック(製造設備)	2	NCK 半導体 (製造設備)	4	生物科学研(機器)	3	DP(製造設備)	6
		生物科学研(機器)	2			生物科学研(機器)	4
						スノーテックス (製造設備)	3

※1 主要投資額: 承認ベース(一部、検収ベース) ※2 ファインケミカル(p31参照) ※3 NBR 第1期工事(検収ベース) ※4 NCK新工場(検収ベース)

18 ページ、こちらは一覧でございますので、後ほどご覧ください。

セグメント別 2022年度通期 前回業績予想(8月発表)比

(億円)

		2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
		上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
化学品	売上高	195	193	388	198	226	424	+3	+33	+36
	営業利益	15	8	23	11	14	25	-4	+6	+2
機能性材料	売上高	424	465	889	420	472	892	-4	+7	+3
	営業利益	142	160	302	139	164	303	-3	+4	+1
農業化学品	売上高	332	422	754	357	435	792	+25	+13	+38
	営業利益	106	100	206	121	98	219	+15	-2	+13
ヘルスケア	売上高	31	29	60	32	34	66	+1	+5	+6
	営業利益	13	10	23	15	13	28	+2	+3	+5
卸売・その他・ 調整額	売上高	72	70	142	88	80	168	+16	+10	+26
	営業利益	0	-3	-3	-4	-16	-20	-4	-13	-17
合計	売上高	1,054	1,179	2,233	1,095	1,247	2,342	+41	+68	+109
	営業利益	276	275	551	282	273	555	+6	-2	+4

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
 ※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥料ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp79,p80参照)
 ※ 企画本部の2022年度予想(2022年11月発表)の売上高・営業利益はp69に記載

| 23

では、セグメント別の数字、それから少しコメントをさせていただきます。

20 ページから 24 ページまでは、それぞれセグメント別の数字の開示でございます、詳細は割愛いたします。23 ページまで飛んでいただきますと、こちらの数字は 8 月発表の業績予想との比較になっております。一番右の黄色の枠の中、こちらが年間ベースでございます。

セグメント別 2022年度通期 期初業績予想(5月発表)比

(億円)

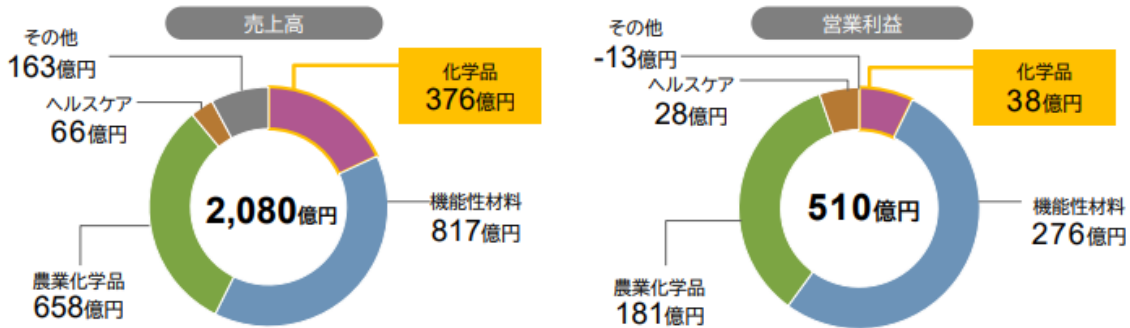
		2022年度 期初予想 (2022年5月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			期初業績予想比		
		上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
化学品	売上高	193	193	386	198	226	424	+5	+33	+38
	営業利益	14	8	22	11	14	25	-3	+6	+3
機能性材料	売上高	434	465	899	420	472	892	-14	+7	-7
	営業利益	145	160	305	139	164	303	-6	+4	-2
農業化学品	売上高	307	422	729	357	435	792	+50	+13	+63
	営業利益	95	100	195	121	98	219	+26	-2	+24
ヘルスケア	売上高	30	29	59	32	34	66	+2	+5	+7
	営業利益	11	10	21	15	13	28	+4	+3	+7
卸売・その他・ 調整額	売上高	47	70	117	88	80	168	+41	+10	+51
	営業利益	-5	-3	-8	-4	-16	-20	+1	-13	-12
合計	売上高	1,011	1,179	2,190	1,095	1,247	2,342	+84	+68	+152
	営業利益	260	275	535	282	273	555	+22	-2	+20

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
 ※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp79,p80参照)
 ※ 企画本部の2022年度予想(2022年11月発表)の売上高・営業利益はp69に記載

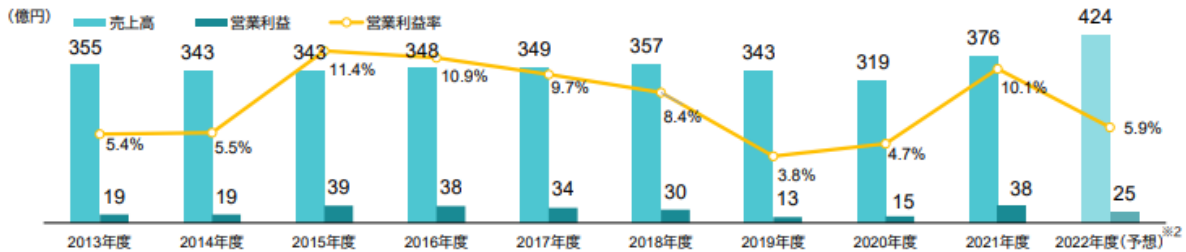
| 24

また、24 ページは、先ほど少し申し上げました、期初5月にお示しをした業績予想との比較を載せております。後ほどご覧ください。

2021年度セグメント別業績※1



化学品セグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)
 ※2 予想は2022年11月発表

化学品セグメント 主要製品売上高成長率

- ファインケミカルは、上期で23%増収、業績予想比で下ぶれ。2022年度年間では24%増収予想
- 基礎化学品は、上期で11%増収、業績予想比でも上ぶれ。2022年度年間では7%増収予想

主要製品	2022年度 予想(2022/8発表)※1			2022年度 予想(2022/11発表)		
	前年同期比			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間
テビック	+28%	+4%	+15%	+25%	+22%	+23%
環境化学品	+17%	+13%	+15%	+17%	+36%	+26%
ファインオキシコール	+31%	-7%	+9%	+36%	-4%	+13%
ファインケミカル合計※2	+24%	+7%	+15%	+23%	+24%	+24%
メラミン※3	+17%	-	-58%	+28%	-96%	-51%
尿素・アドブルー®	+49%	+30%	+38%	+56%	+75%	+67%
高純度硫酸	+3%	+9%	+6%	+1%	+8%	+4%
硝酸製品※4	-15%	-1%	-7%	-14%	+24%	+6%
基礎化学品合計※5・6	+8% (+7%)	-12% (+10%)	-3% (+8%)	+11% (+8%)	+3% (+28%)	+7% (+19%)
化学品セグメント合計※5	+14% (+14%)	-6% (+9%)	+3% (+11%)	+16% (+14%)	+10% (+27%)	+13% (+21%)

※1 上期と年間の数値は、2022年8月当時は非開示。下期の数値は、2022年5月発表から変更なく開示済み
 ※2 テビック、環境化学品、ファインオキシコールの2022年度上期実績ファインケミカル売上高に占める割合：87%
 ※3 メラミンは2022年6月に生産停止済み(p32参照、メラミン生産停止による構造改革)
 ※4 2022年4月から6月に硝酸プラントトラブル停止、6月17日出荷再開（損失試算）2022年1Q 6.7億円、2Q 3.2億円、上期 9.9億円
 ※5 2022年度予想の()内伸び率は、2021年度実績・2022年度予想ともにメラミンを除いた合計での伸び率
 ※6 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2022年度上期実績基礎化学品売上高に占める割合：57%

では、まず 26 ページ、化学品セグメントからコメントさせていただきます。

こちらには主要製品の前年同期比ベースの売上高成長率が載っております。この表の真ん中のグレーの数値は、先ほどから申し上げておりますように、8月発表時点のものでございますので、下の※1に少し小さく書いてございますが、上期それから年間の数値は、2022年の8月当時は非開示でございますので、今回開示をさせていただきます。

また、下期のところの数値につきましては、5月の発表からこの8月時点では変えていないということでございますので、既に開示済みという前提でご覧ください。

上段コメントにございます通り、ファインケミカルでは上期で23%の増収、業績予想比では若干の下ぶれとなっております。通期では24%増収を予想しております。

また、基礎化学品は上期で11%増収、業績予想比でも上ぶれ。年間では7%の増収を予想しております。メラミン除きでは、表の右下に書いてございます通り、括弧内の数字でございますが、年間19%の増収を想定いたします。

化学品セグメント 2022年度上期決算 前年同期比



【上期】売上高+27億円、営業利益-1億円

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	88	83	171	104	94	198	+11	+27
ファインケミカル	32	30	62	42	35	77	+5	+15
基礎化学品	56	53	109	62	59	121	+6	+12
営業利益	13	-1	12	17	-6	11	-5	-1

※ 2021年度上期実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

【上期】増収・増益

ファインケミカル

- テビック一般 価格上昇で増収
- テビック電材 減収
- 環境化学品 価格上昇で増収
- ファインオキシコール 化粧品用途回復で増収
- 原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【上期】増収・減益

基礎化学品

- メラミン 価格上昇で増収
- 尿素・アドブルー® 価格上昇で増収
- 高純度硫酸 横ばい
- 硝酸製品 硝酸プラントトラブルで減収(p26参照)
- 原燃料高、固定費増加2億円(減益要因)、運送費減少(増益要因)

| 27

続きまして、27 ページ、上期前年同期比のファイン、基礎のそれぞれの概要でございます。

セグメントとしましては、売上高で 27 億円の増収でございます。ファインで 15 億円、基礎で 12 億円の増収、営業利益としては全体で、1 億円と若干減益でございました。

左下及び右下に書いてございます通り、ファインは増収、増益でございましたが、基礎につきましては、増収の一方で減益となっております。

この上期は、下に書いてございます通り、硝酸プラントトラブルによる減収もございました。加えて原燃料高、あるいは固定費の増加 2 億円といった減益要因がここで効いております。

化学品セグメント 2022年度上期決算 業績予想比



【上期】売上高+3億円、営業利益-4億円

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 実績			業績予想比
	1Q実績	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q・上期
売上高	104	91	195	104	94	198	+3
ファインケミカル	42	36	78	42	35	77	-1
基礎化学品	62	55	117	62	59	121	+4
営業利益	17	-2	15	17	-6	11	-4

ファインケミカル	【上期】売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ
テビック一般	価格上昇により売上高上ぶれ
テビック電材	売上高下ぶれ
環境化学品	売上高予想通り
ファインオキシコール	化粧品用途好調で上ぶれ
	原燃料高(減益要因)、在庫変動影響2億円(増益要因)

基礎化学品	【上期】売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ
メラミン	終売後ろ倒しにより売上高上ぶれ
尿素・アドブルー®	価格上昇で売上高上ぶれ
高純度硫酸	売上高下ぶれ
硝酸製品	売上高予想通り
	原燃料高(減益要因)

| 28

次に 28 ページ、こちらは上期の業績予想比でございまして、実質、先ほど申し上げましたように 2Q の年初予算比でございまして。

数字を見ていただきますと、売上高で 3 億円の増収ですが、営業利益としては 4 億円の減益となっております。

特に右下にございます、基礎で営業利益が下ぶれております。理由としましては、やはり原燃料高が減益要因として効いているということでございました。

【年間】売上高+48億円、営業利益-13億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2022年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	171	105	100	205	376	198	110	116	226	424	+27	+5	+16	+21	+48
ファインケミカル	62	37	32	69	131	77	40	46	86	163	+15	+3	+14	+17	+32
基礎化学品	109	68	68	136	245	121	70	70	140	261	+12	+2	+2	+4	+16
営業利益	12	13	13	26	38	11	9	5	14	25	-1	-4	-8	-12	-13

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

	【年間】増収・利益横ばい		【年間】増収・減益	
ファインケミカル	テビック一般	価格上昇で増収	メラミン	2022年6月生産停止により減収
	テビック電材	減収	尿素・アドブルー®	価格上昇で増収
	環境化学品	価格上昇で増収	高純度硫酸	増収
	ファインオキシコール	化粧品用途回復で増収	硝酸製品	価格上昇で増収
	原燃料高、運送費高騰、固定費増加1億円(減収要因)		原燃料高、固定費増加4億円(減収要因)、 運送費減少、在庫変動影響3億円(増収要因)	
基礎化学品				

続きまして 29 ページ、こちら前年同期比でございます。

年間ベースで申し上げますと、売上としては 48 億円の増収。一方、営業利益としては 13 億円の減益となります。数字としては一番右端の黄色い枠の中となります。

特に右側でございますが基礎化学品で減益となっております、先ほど少し申し上げましたが 2021 年度下期、メラミンの市況好調の反動もございます。

また、原燃料高及び固定費 4 億円の増加といった減収要因が出ております。

【下期】売上高+33億円、営業利益+6億円

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	195	193	388	198	226	424	+3	+33	+36
ファインケミカル	78	74	152	77	86	163	-1	+12	+11
基礎化学品	117	119	236	121	140	261	+4	+21	+25
営業利益	15	8	23	11	14	25	-4	+6	+2

【下期】売上高上ぶれ・営業利益下ぶれ

ファインケミカル	テビック一般	価格上昇により売上高上ぶれ
	テビック電材	売上高下ぶれ
	環境化学品	価格上昇により売上高上ぶれ
	ファインオキソコール	売上高上ぶれ
原燃料高、運送費高騰、固定費上ぶれ1億円(減益要因)		

【下期】売上高・営業利益とも上ぶれ

基礎化学品	メラミン	終売後ろ倒しにより売上高上ぶれ
	尿素・アドブルー®	価格上昇で売上高上ぶれ
	高純度硫酸	売上高予想通り
	硝酸製品	価格上昇で売上高上ぶれ
原燃料高(減益要因)		

| 30

続きまして 30 ページ、こちらは前回業績予想比ですが、特に下期に焦点を当ててコメントさせていただきます。数字としては右側の黄色い枠の中でございます。

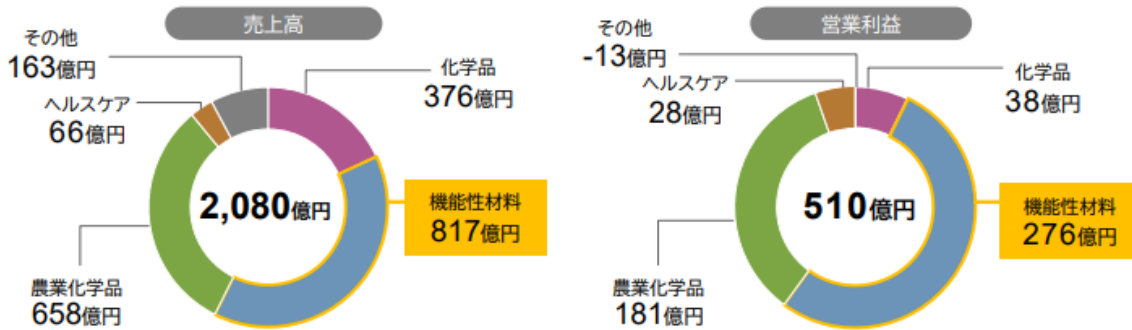
ファインケミカルは売上高上ぶれましたが、営業利益は下ぶれ。原燃料高、運送費高騰、及び固定費の若干の上ぶれも減益要因として効いております。

一方、基礎でございますが、こちらは売上高、営業利益ともに上ぶれでございますが、値上げ等を行いまして、こちらは利益としては上ぶれを想定しております。

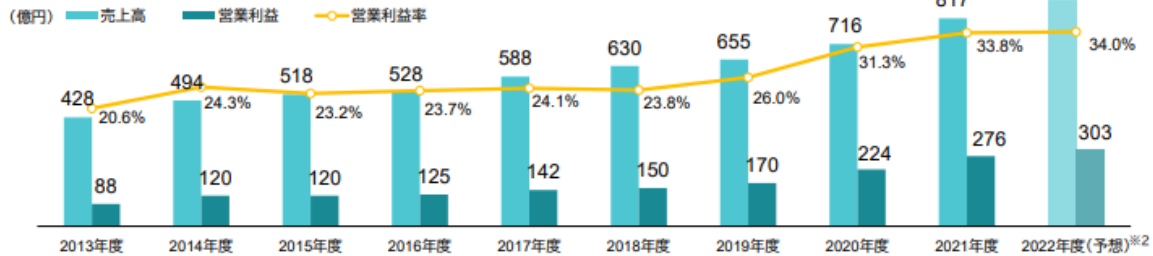
また、年間ベースでも一番右の表の通りでございます。利益は2億円の上ぶれとなっております。

以上が化学品のセグメントでございます。

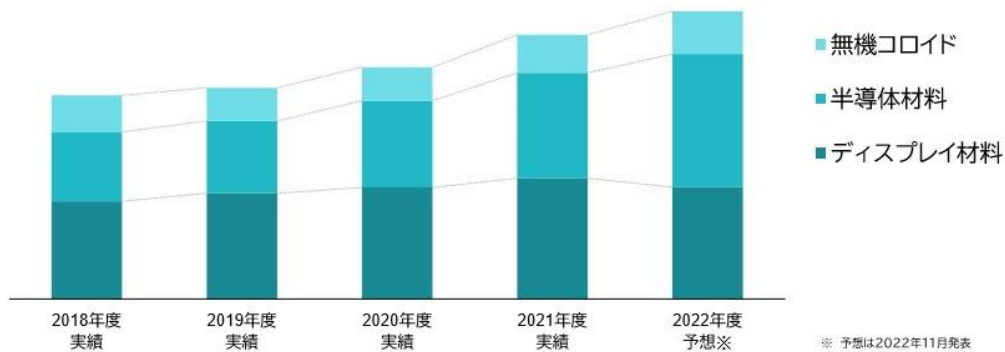
2021年度セグメント別業績※1



機能性材料セグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)
 ※2 予想は2022年11月発表



※ 予想は2022年11月発表

主要製品

ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエパー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊銅板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		その他新材料	EUV材料、三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料等	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

続きまして 34 ページ、機能性材料でございます。こちらの真ん中の棒グラフは、今回の通期の予想をそれぞれのサブセグメントごとにグラフでお示ししております。

機能性材料セグメント 主要製品売上高成長率



- ディ스플레이材料は、2022年度上期で13%減収、業績予想比でも下ぶれ。2022年度年間で7%減収予想
- 半導体材料は、2022年度上期で26%増収、業績予想比でも上ぶれ。2022年度年間で26%増収予想
- 無機コロイドは、2022年度上期で9%増収、業績予想比でも上ぶれ。2022年度年間で13%増収予想

主要製品	2022年度 予想(2022/8発表) ^{※1}			2022年度 予想(2022/11発表)			
	前年同期比			前年同期比			
	上期	下期	年間	上期実績	下期	年間	
サンエパー	-6%	+3%	-2%	-12%	-2%	-7%	
ディスプレイ材料合計	-6%	+3%	-2%	-13%	-2%	-7%	
ARC®	KrF (ARC®)	+11%	+9%	+10%	+8%	+11%	+10%
	ArF (ARC®)	+25%	+20%	+22%	+26%	+24%	+25%
ARC® 小計	+23%	+18%	+20%	+23%	+21%	+22%	
その他半導体材料合計 ^{※2}	+23%	+29%	+26%	+35%	+37%	+36%	
半導体材料合計	+23%	+21%	+22%	+26%	+26%	+26%	
スノーテックス	+4%	+9%	+6%	+6%	+27%	+16%	
オルガノゾル・モノマーゾル	+7%	-1%	+3%	+10%	-9%	0%	
オイル&ガス材料	+52%	-25%	+9%	+94%	+18%	+52%	
無機コロイド合計	+5%	+5%	+5%	+9%	+17%	+13%	
機能性材料セグメント合計	+7%	+10%	+9%	+6%	+12%	+9%	

※1 上期と年間の数値は、2022年8月当時は非開示。下期の数値は、2022年5月発表から変更なく開示済み
 ※2 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料等

| 35

次に、35 ページは主要製品の売上高成長率でございます。

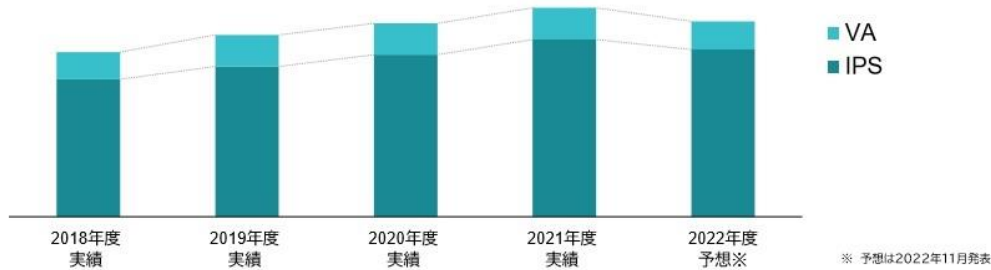
ディスプレイ材料は、上段にコメントございますように、2022 年度上期で前年同期比では 13%の減収になりました。業績予想比でも下ぶれになっております。下期の前年同期比は 2%の減収、通期としては前年同期比で 7%の減収予想でございます。

上期、特に 2Q は、パネルメーカーサイドでの在庫調整、あるいは市場のスローダウンを受けて下ぶれしたわけですが、下期から徐々に回復を想定ということでございます。

続きまして、半導体は上期の前年同期比で 26%の増収、業績予想比でも上ぶれをしております。年間では同様に前年同期比で 26%の増収を予想ということでございます。

無機につきましては、上期の前年同期比で 9%の増収、業績予想比でも上ぶれ、年間でも前年同期比で 13%の増収予想でございます。

ディスプレイ市場減速のため、2022年度上期は前年同期比減収、業績予想比でも下ぶれ
下期から徐々に回復を見込む



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター

モード別売上高成長率

	2022年度 上期実績		2022年度 年間予想 (2022年11月発表)
	前年同期比	業績予想比 (2022年8月作成 予想値は非開示)	
VA	減収(-10 ~ -19%)	下ぶれ	減収(-10 ~ -19%)
IPS	減収(-10 ~ -19%)	下ぶれ	減収(-0 ~ -9%)
サンエバー合計(TN※含む)	-12%	下ぶれ	-7%

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

| 36

36 ページには、ディスプレイのサンエバーのモード別売上高をお示ししております。

下段の表にございます通り、この上期の実績としましては、前年同期比で、VA で減収。それから光、ラビングを含めました IPS でも同様に減収となっております。ただ、光 IPS につきましては、ひと桁前半の減収にとどまっております。結果、サンエバー合計としては、35 ページと同様、12%の減収となっております。上期の業績予想につきましても、VA・IPS いずれも下ぶれとなりました。一方、通期では右にございます通り、それぞれ減収、サンエバー全体では7%の減収を想定いたします。

【上期】売上高+24億円、営業利益+8億円、固定費増加合計4億円(共通費用増加1億円含む)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	200	196	396	218	202	420	+6	+24
営業利益	69	62	131	79	60	139	-2	+8

※ 2021年度上期実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

ディスプレイ	【上期】減収・減益	
	光IPS	減収
	ラビングIPS	減収
	VA	減収

半導体	【上期】増収・増益	
	ARC [®]	増収
	その他	増収(多層材料・その他新材料※増収)
	市場全般好調、固定費増加2億円	

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

無機コロイド	【上期】増収・増益	
	スノーテックス	増収(一般用途・研磨材ともに増収)
	オルガノ・モノマーソル	増収
	オイル&ガス材料	増収
固定費増加1億円		

| 37

37 ページは、上期の前年同期比でございます。

営業利益では8億円の増益となりましたが、ディスプレイは減収、減益となっております。光IPSにつきましては、その中では小幅な減収にとどまっておりますが、ラビングIPS・VAは、2桁%の減収となっております。

一方、右側半導体につきましては、大きく増収、増益でございます。ARCそれから多層、EUVも含めまして、その他新材料で大きく増収となっております。市場全般の好調を受けた結果でございます。

無機につきましても、増収、増益ございました。

なお、上期には機能性材料全体で、前年同期比で固定費4億円増加もございました。

【上期】売上高-4億円、営業利益-3億円、固定費下ぶれ合計2億円(増益要因)

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 実績			業績予想比
	1Q実績	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q・上期
売上高	218	206	424	218	202	420	-4
営業利益	79	63	142	79	60	139	-3

ディスプレイ

【上期】売上高・営業利益とも下ぶれ

光IPS 売上高下ぶれ
ラビングIPS 売上高下ぶれ
VA 売上高下ぶれ
固定費下ぶれ1億円(増益要因)

半導体

【上期】売上高・営業利益とも上ぶれ

ARC® 売上高予想通り
その他 売上高上ぶれ(多層材料・その他新材料※上ぶれ)
固定費下ぶれ2億円(増益要因)

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元素装材の合計

無機コロイド

【上期】売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ

スノーテックス 売上高上ぶれ(一般用途予想通り、研磨材上ぶれ)
オルガノ・モノマーソル 売上高上ぶれ
オイル&ガス材料 売上高上ぶれ
固定費上ぶれ1億円(減益要因)

| 38

次に、38 ページ上期の業績予想比でございます。

こちらは先ほど申し上げました通り、営業利益では3億円下ぶれでございます。ディスプレイの下ぶれがございました。一方、半導体につきましては上ぶれでございます。

【年間】売上高+75億円、営業利益+27億円、固定費増加合計19億円(共通費用増加3億円含む)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2022年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	396	209	212	421	817	420	227	245	472	892	+24	+18	+33	+51	+75
営業利益	131	76	69	145	276	139	81	83	164	303	+8	+5	+14	+19	+27

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

	【年間】減収・減益			【年間】増収・増益	
	項目	内容		項目	内容
ディスプレイ	光IPS	横ばい(ノートPC・車載好調も他用途減収)	半導体	ARC [®]	増収
	ラビングIPS	減収		その他	増収(多層材料・その他新材料※増収)
	VA	減収	市場全般好調、固定費増加8億円		
	固定費増加3億円		※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計		
無機コロイド			【年間】増収・増益	スノーテックス	増収(一般用途・研磨材ともに増収)
				オルガノ・モノマーゾル	横ばい
				オイル&ガス材料	増収
				固定費増加5億円	

| 39

39 ページ、こちらは前年同期比でございます。

通期ということで、年間ではこのセグメント、27 億円の大増益を見込みます。

ディスプレイは減収、減益でございますが、光 IPS につきましては年間を通じまして、前年比横ばいを想定いたします。下期から徐々に回復することを見込んでいます。

一方、半導体及び無機につきましては、それぞれ増収、増益を想定いたします。

また、この年間を通じまして、機能性材料セグメント全体で固定費の増加が 19 億円ございます。

【下期】売上高+7億円、営業利益+4億円、固定費上ぶれ合計6億円(減益要因)

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	424	465	889	420	472	892	-4	+7	+3
営業利益	142	160	302	139	164	303	-3	+4	+1

ディスプレイ

【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

光IPS	売上高予想通り
ラビングIPS	売上高下ぶれ
VA	売上高下ぶれ
固定費上ぶれ1億円(減益要因)	

半導体

【下期】売上高・営業利益とも上ぶれ

ARC®	売上高上ぶれ
その他	売上高上ぶれ (多層材料上ぶれ、その他新材料※下ぶれ)
固定費上ぶれ2億円(減益要因)	

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材の合計

無機
コロイド

【下期】売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ

スノーテックス	売上高上ぶれ(一般用途・研磨材ともに上ぶれ)
オルガノ・モノマーソル	売上高下ぶれ
オイル&ガス材料	売上高上ぶれ
固定費上ぶれ3億円(減益要因)	

| 40

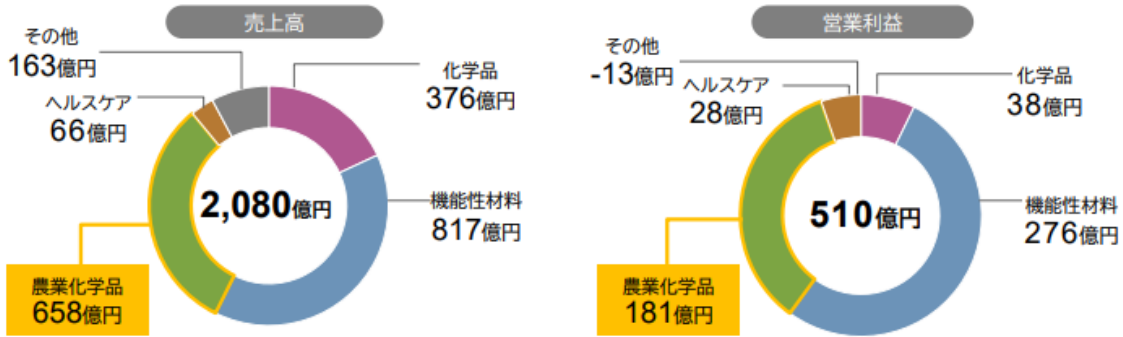
40 ページ、前回業績予想比でございます。こちらは下期のところのコメントでございます。

左下、先ほど申し上げました通り、ディスプレイは売上高でやはり下ぶれですが、営業利益としては若干の下ぶれにとどまると見ております。

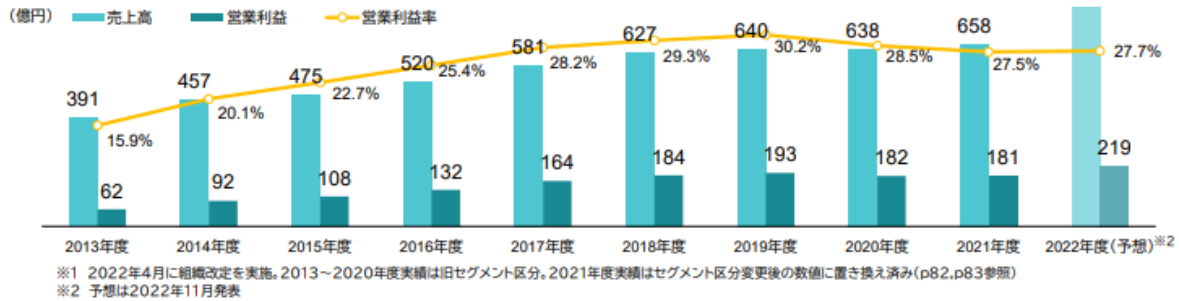
半導体は、売上高、利益ともに上ぶれでございます。

無機は営業利益で若干の下ぶれを想定しておりますが、結果的には機能性材料全体で、下期では前回業績予想比 4 億円の上ぶれ、その中には固定費 6 億円の上ぶれという減益要因も入っております。

2021年度セグメント別業績※1



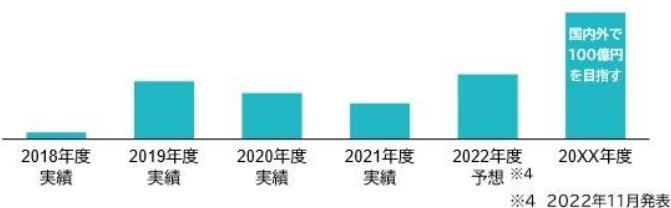
農業化学品セグメント業績推移



2022年度上期で43%増収、業績予想比でも上ぶれ。2022年度年間で20%増収予想

主要製品名 (2021年度売上高順)	種類	2022年 予想(2022/8発表)※1			2022年 予想(2022/11発表)		
		前年同期比			前年同期比		
		上期	下期	年間	上期実績	下期	年間
ラウンドアップ※2	除草剤	+18%	+5%	+11%	+16%	+3%	+9%
フルララネル	動物薬	+33%	+13%	+24%	+42%	+32%	+38%
アルテア	除草剤	+23%	+2%	+6%	+31%	+10%	+14%
タルガ	除草剤	+25%	-7%	+7%	+30%	-1%	+13%
ダイセン	殺菌剤	+37%	+3%	+15%	+38%	+3%	+15%
パーミット	除草剤	+203%	-54%	0%	+190%	-45%	+4%
ライメイ	殺菌剤	+104%	+54%	+68%	+144%	+71%	+92%
グレーシア	殺虫剤	+218%	+30%	+72%	+199%	+47%	+81%
クインタック	殺菌剤	-85%	+5%	-24%	+121%	-97%	-26%
セグメント合計※3	-	+33%	+3%	+15%	+43%	+6%	+20%

グレーシア売上高



参考

国内農業販売 第1位(2019年10月～2020年9月)

ラウンドアップの現状説明会資料 (2020年1月22日発表)

※1 上期と年間の数値は、2022年8月当時は非開示。下期の数値は、2022年5月発表から変更なく開示済み

※2 ラウンドアップALは、2022年度上期のラウンドアップ売上高全体の32%を占める

※3 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

続きまして 42 ページ、農業化学品でございます。こちらは、同じように主要製品売上高成長率でございまして。

見ていただきますとお分かりの通り、最終行 2022 年度上期では 43%の増収、業績予想比でも上ぶれとなりまして、年間でも 20%の増収を想定いたします。

この中ではほとんどプラスが並んでおりますが、年間で見ますと一番右端、クインテックだけが、若干のマイナスでございまして、こちらは 2020 年度下期から 2021 年度への出荷の後ろ倒しがございました関係で、2021 年度対比では 2022 年度は若干の減収ということでございまして。

農業化学品セグメント 2022年度上期決算 前年同期比



【上期】売上高+107億円、営業利益+52億円、固定費増加7億円、在庫変動影響10億円(増益要因)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	134	116	250	197	160	357	+44	+107
営業利益	40	29	69	68	53	121	+24	+52

※ 2021年度上期実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

主要製品	増収(減収)	要因
ラウンドアップ(除草剤)	増収	(ML:価格上昇・数量増、AL:価格上昇)
フルラナール(動物薬)	増収	(原薬出荷の2021年度からの後ろ倒し、顧客在庫調整終了、ロイヤリティ収入堅調)
アルテア(除草剤)	増収	(国内・輸出ともに増収、輸出一部下期からの出荷前倒し)
タルガ(除草剤)	増収	(需要増)
ダイセン(殺菌剤)	増収	(輸出を中心に増収)
パーミット(除草剤)	増収	(輸出:21年度は販売が下期に偏重)
ライメイ(殺菌剤)	増収	(欧州での混合剤用途向け販売により輸出増収)
グレーシア(殺虫剤)	増収	(国内:流通在庫解消により増収、輸出:インド・インドネシア拡販により増収)
クインテック(殺菌剤)	増収	(下期からの出荷前倒し)

| 43

43 ページ、こちらは上期の前年同期比でございまして、先ほど申し上げました通り、ほぼ全ての剤で増収となった結果、52 億円の大幅な増益となりました。

またこの中には、固定費の増加 7 億円がございましたが、一方で、2021 年度下期から 2022 年度上期にかけて、原価高があり、これが利益サイドに出たということで、在庫変動影響で 10 億円の増益要因となっております。

フルララネル、こちらも増収でございます。コメントにあります通り、2021年度からの後ろ倒しもございますが、メルクサイドでの在庫調整の終了、加えましてロイヤリティの収入も堅調でございました。

農業化学品セグメント 2022年度上期決算 業績予想比



【上期】売上高+25億円、営業利益+15億円、在庫変動影響3億円(増益要因)

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 実績			業績予想比
	1Q実績	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q・上期
売上高	197	135	332	197	160	357	+25
営業利益	68	38	106	68	53	121	+15

主要製品		
ラウンドアップ(除草剤)	売上高下ぶれ(ML:予想通り、AL:下ぶれ)	
フルララネル(動物薬)	売上高上ぶれ(ロイヤリティ収入上ぶれ)	
アルテア(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:下期からの出荷前倒し)	
タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(下期からの出荷前倒し)	
ダイセン(殺菌剤)	売上高予想通り	
パーミット(除草剤)	売上高下ぶれ(下期へ一部出荷後ろ倒し)	
ライメイ(殺菌剤)	売上高上ぶれ(21年度4Q及び22年度下期からの出荷期ズレ、需要増)	
グレーシア(殺虫剤)	売上高下ぶれ(国内下ぶれ、輸出上ぶれ)	
クインタック(殺菌剤)	売上高上ぶれ(下期からの出荷前倒し)	

44 ページ、こちらは上期業績予想比でございます。

先ほど申し上げました通り、15億円の利益の上ぶれでございました。

【年間】売上高+134億円、営業利益+38億円、固定費増加17億円、在庫変動影響15億円(増益要因)

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2022年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	250	119	289	408	658	357	113	322	435	792	+107	-6	+33	+27	+134
営業利益	69	30	82	112	181	121	16	82	98	219	+52	-14	0	-14	+38

※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

主要製品	製品名	増減
	ラウンドアップ(除草剤)	増収(ML:価格上昇・数量増、AL:価格上昇)
	フルラネル(動物薬)	増収(原薬出荷の2021年度からの後ろ倒し、顧客在庫調整終了、原薬出荷・ロイヤリティ収入堅調)
	アルテア(除草剤)	増収(国内を中心に増収)
	タルガ(除草剤)	増収(需要増)
	ダイセン(殺菌剤)	増収(輸出を中心に増収)
	パーミット(除草剤)	増収
	ライメイ(殺菌剤)	増収(欧州での混合剤用途向け拡販により需要増)
	グレーシア(殺虫剤)	増収(国内:流通在庫解消により増収、輸出:インド・インドネシアでの拡販および韓国での販売回復により増収)
	クインテック(殺菌剤)	減収(21年度において20年度4Qからの後ろ倒し)

| 45

45 ページ、こちらは通期の前年同期比でございます。

通期では営業利益 38 億円の増益を見込みます。固定費の増加 17 億円もございしますが、一方で、在庫変動影響は先ほど申しあげました要因もありまして、15 億円の増益要因があり、ほぼ相殺と見ております。

それぞれ各剤、上から増収が並んでおります。先ほど申しあげました通り、クインテックだけ減収になっております。

【下期】売上高+13億円、営業利益-2億円、固定費上ぶれ5億円(減益要因)

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	332	422	754	357	435	792	+25	+13	+38
営業利益	106	100	206	121	98	219	+15	-2	+13

主要製品	ラウンドアップ(除草剤)	フルララネル(動物薬)	アルテア(除草剤)	タルガ(除草剤)	ダイセン(殺菌剤)	パーミット(除草剤)	ライメイ(殺菌剤)	グレーシア(殺虫剤)	クインテック(殺菌剤)
	売上高下ぶれ(ML:予想通り、AL:下ぶれ)	売上高上ぶれ(原薬出荷・ロイヤリティ収入上ぶれ)	売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出2Qへ出荷前倒しで下ぶれ)	売上高上ぶれ(需要増)	売上高予想通り	売上高上ぶれ(2Qからの出荷後ろ倒し)	売上高上ぶれ(欧州での混合剤用途向け拡販により需要増)	売上高上ぶれ(輸出を中心に上ぶれ)	売上高下ぶれ(2Qへ出荷前倒し)

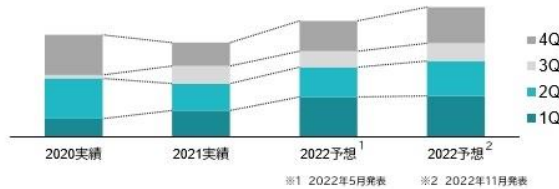
46 ページ、こちらは前回業績予想比でございます。

下期のコメントでございますが、営業利益としては2億円の**下ぶれ**を想定いたします。固定費の上ぶれ5億円という**減益要因**もございます。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

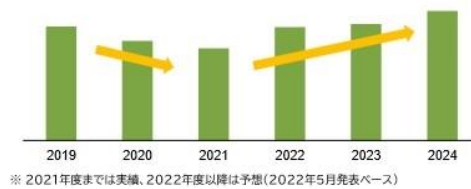
MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2020～2022年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にもとない、2021年度からは各四半期に計上されている(p81参照)

■ 2019～2024年度 売上高推移イメージ(RR収入含む) (2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しもあり、大幅増収を計画。5月発表時点の想定為替レートは115円/ドル
- ・2023年度以降の想定為替レートは110円/ドル
- ・中計2027年度は、国別の特許の延長・失効の予想(p48参照)を織り込み、ブラベクト新規開発剤上市に伴う販売増は織り込んでいない

■ ブラベクトの拡大に向けたMSD社の開発状況

フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外外部寄生虫薬、家畜向け経皮投与剤等をMSD社が開発中

49 ページまで飛んでいただきますと、フルララネルの売上高推移、左側のグラフに今回の11月発表予想値を追記しております。後ほどご覧ください。

また、右側の売上高の2024年度までのイメージ、こちらは2022年5月の発表値から変えておりません。

2021年度セグメント別業績※1



ヘルスケアセグメント業績推移



※1 2022年4月に組織改定を実施。2013～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)
 ※2 予想は2022年11月発表

最後に、ヘルスケアでございます。52 ページをご覧ください。

こちら営業利益率が2021年度から急激に上がっていますが、前回申し上げました通り、2022年4月1日に組織改定がございまして、その関係で前年度2021年度から遡って、新しいセグメントとして捉え直したことで、このような数字となっております。

【上期】売上高-0.9億円、営業利益+0.8億円

(億円)

	2021年度 実績			2022年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	10.7	22.7	33.4	16.5	16.0	32.5	-6.7	-0.9
ヘルスケア	6.3	7.8	14.1	8.3	5.9	14.2	-1.9	+0.1
ファインテック	4.4	14.9	19.3	8.2	10.1	18.3	-4.8	-1.0
営業利益	3.0	10.8	13.8	7.6	7.0	14.6	-3.8	+0.8
ヘルスケア	2.0	3.2	5.2	3.9	2.4	6.3	-0.8	+1.1
ファインテック	1.0	7.6	8.6	3.7	4.6	8.3	-3.0	-0.3

※ p20,p21,p22,p23,p24,p78,p79,p80では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある
 ※ 2021年度上期実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

ヘルスケア	【上期】増収・増益
リバロ	増収(国内減収、輸出増収)

ファインテック	【上期】減収・減益
	一部製品の今期販売は下期偏重により減収

| 55

続きまして、55 ページまで飛んでいただきますと、上期の前年同期比でございます。

リバロを中心に少し増収がございました関係で、この上期は増収、増益。一方、ファインテックは若干の減益となりました。

【年間】売上高-0.3億円、営業利益-0.1億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想 (2022年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	33.4	19.2	13.3	32.5	65.9	32.5	16.8	16.3	33.1	65.6	-0.9	-2.4	+3.0	+0.6	-0.3
ヘルスケア	14.1	4.8	5.3	10.1	24.2	14.2	4.3	5.3	9.6	23.8	+0.1	-0.5	0.0	-0.5	-0.4
ファインテック	19.3	14.4	8.0	22.4	41.7	18.3	12.5	11.0	23.5	41.8	-1.0	-1.9	+3.0	+1.1	+0.1
営業利益	13.8	9.2	5.1	14.3	28.1	14.6	6.6	6.8	13.4	28.0	+0.8	-2.6	+1.7	-0.9	-0.1
ヘルスケア	5.2	1.5	1.7	3.2	8.4	6.3	1.7	1.2	2.9	9.2	+1.1	+0.2	-0.5	-0.3	+0.8
ファインテック	8.6	7.7	3.4	11.1	19.7	8.3	4.9	5.6	10.5	18.8	-0.3	-2.8	+2.2	-0.6	-0.9

※ p20,p21,p22,p23,p24,p78,p79,p80では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある
 ※ 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p82,p83参照)

ヘルスケア	【年間】売上高横ばい・増益
リバロ	横ばい(国内減収、輸出増収)
	固定費減少1億円

ファインテック	【年間】売上高横ばい・減益
	売上高横ばい
	固定費増加1億円

続きまして、少し飛びまして、57 ページでございます。

通期では、前年同期比でほぼ横ばいでございます。

【下期】売上高+3.8億円、営業利益+3.3億円

(億円)

	2022年度 予想 (2022年8月発表)			2022年度 予想 (2022年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	30.7	29.3	60.0	32.5	33.1	65.6	+1.8	+3.8	+5.6
ヘルスケア	12.2	9.5	21.7	14.2	9.6	23.8	+2.0	+0.1	+2.1
ファインテック	18.5	19.8	38.3	18.3	23.5	41.8	-0.2	+3.7	+3.5
営業利益	12.2	10.1	22.3	14.6	13.4	28.0	+2.4	+3.3	+5.7
ヘルスケア	4.5	1.4	5.9	6.3	2.9	9.2	+1.8	+1.5	+3.3
ファインテック	7.7	8.7	16.4	8.3	10.5	18.8	+0.6	+1.8	+2.4

※ p20,p21,p22,p23,p24,p78,p79,p80では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【下期】売上高予想通り、営業利益上ぶれ

ヘルスケア

リバロ 売上高予想通り(国内下ぶれ、輸出上ぶれ)
固定費下ぶれ1億円(増益要因)

【下期】売上高・営業利益とも上ぶれ

ファイン
テック

ジェネリック原薬上ぶれにより売上高上ぶれ

| 58

58 ページ業績予想比でございますが、右側のブルーのところを見ていただきますと、売上高で年間6億円、営業利益でも6億円上ぶれになっております。こちらはリバロの特に海外での需要が想定より良いだろうということ。それからファインテックにつきましても、想定を上回る需要を見込んでいるということでございます。

E (環境)	2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
	2022年5月	2050年にカーボンニュートラルへ 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp67参照)
	2022年6月	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
	2022年9月	「 統合レポート2022 」を発行
S (社会)	2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
	2019年6月	取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
	2021年6月	女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
	2022年6月	役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%。 業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
	2022年6月	「 コーポレートガバナンス報告書 」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)

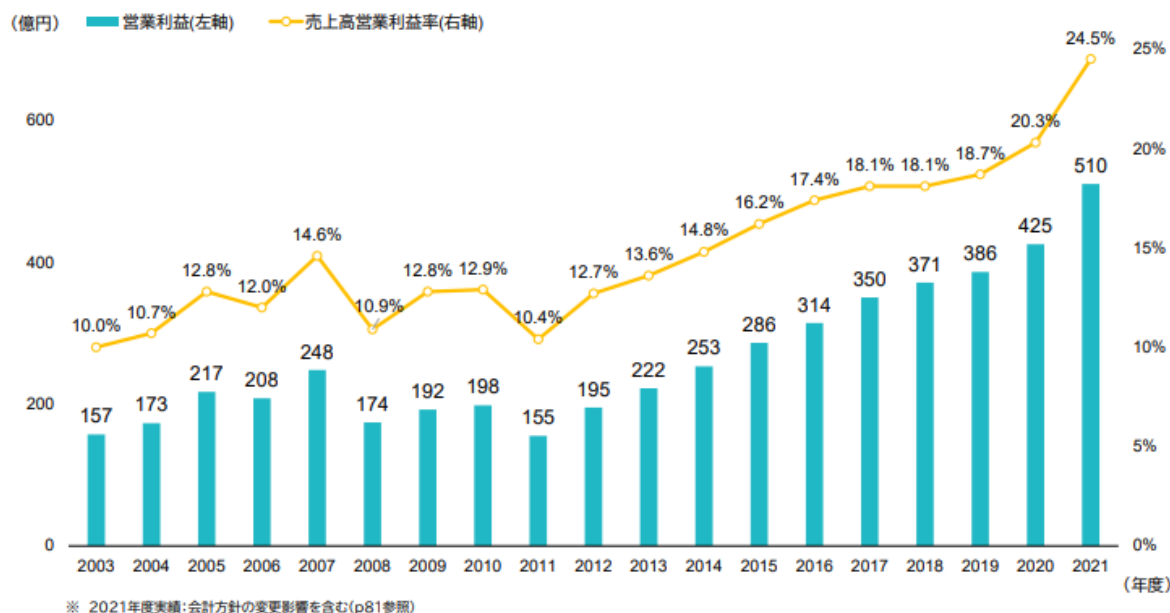
| 60

60 ページにつきましては、ほぼ前回 8 月にお示したところから変わってありませんが、2022 年 9 月に統合レポート 2022 年度版を出させていただいております。

以降の ESG のインデックス関連につきましては、前回と同様でございます。

売上高営業利益率の推移

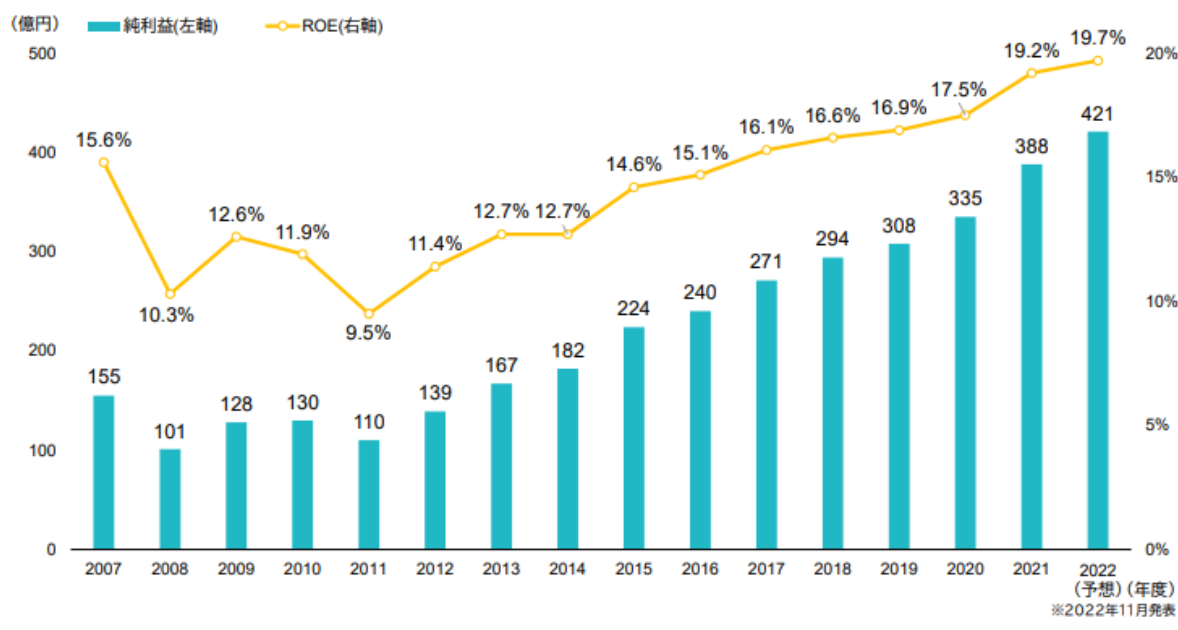
- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降19年連続10%以上)
- 2021年度実績は24.5%



| 70

ROEの推移

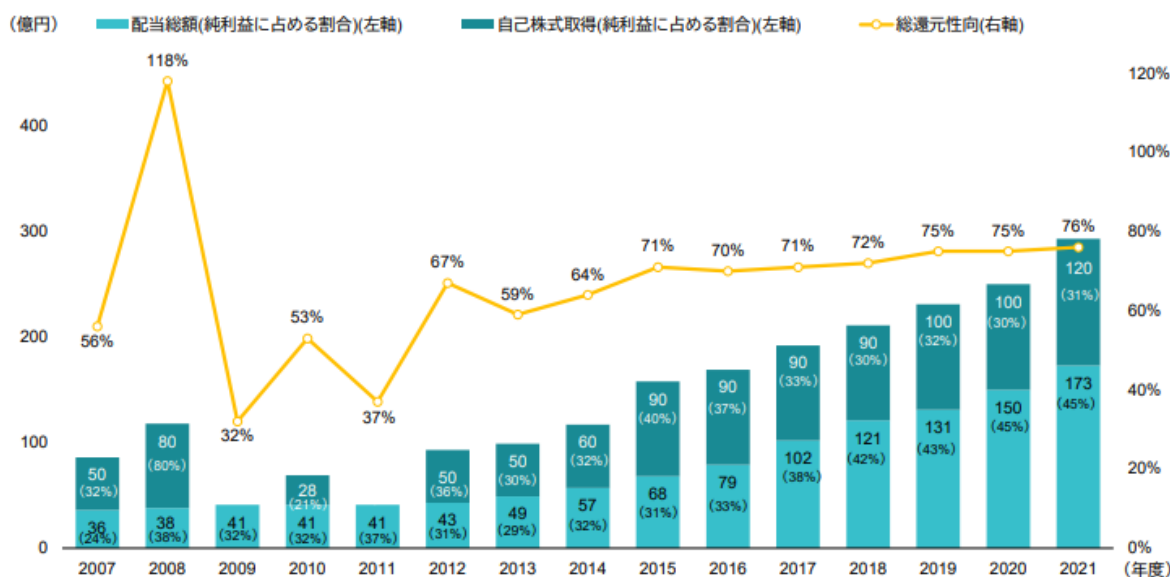
- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2022年度予想は19.7%



| 71

株主還元 総還元性向

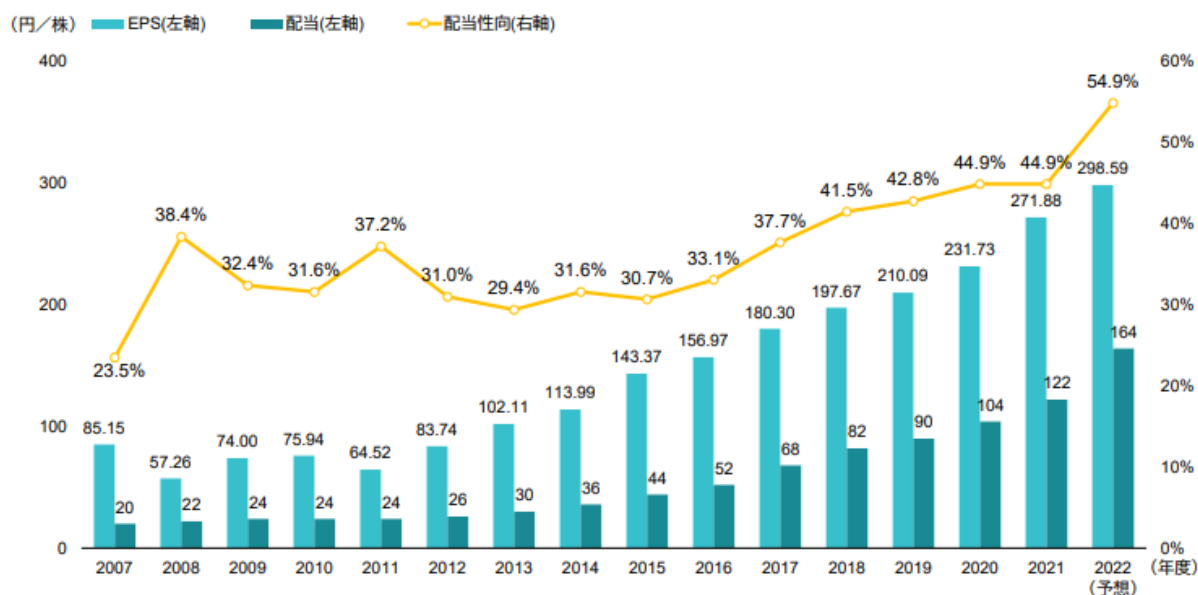
- 配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は60%-70%で推移
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成(2021年度実績は76%)
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標



| 72

株主還元 配当性向

- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2021年度まで10期連続増配



※2022年11月発表

| 73

株主還元 自己株式取得

ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-21年度取得総額1,045億円、4,475万株(取得開始前発行済株式の23.8%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化

2006-2021年度 自己株式取得実績(2009年度、2011年度は自己株式取得なし)

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	44,748
取得価額総額(億円) ^{※1}	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	1,045
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	44,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	-
期末自己株式数(千株) ^{※2}	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	-
株主還元性向(配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	-

2018-2022年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021			2022
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033	683
取得価額総額(億円) ^{※1}	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120	50
自己株式消却総数(千株) ^{※3}	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000	1,700

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く

※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

※3 2022年度上期の自己株式消却は、2022年5月10日及び8月31日消却分

キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

| 74

以降は参考資料となります。私からは以上でご報告を終わります。

質疑応答

<質問者 1>

Q: まず機能性材料ですけれども、少し残念なことに光 IPS が減収になり、2Q の利益が 60 億円程度に落ちた中で、3Q、4Q と結構な回復を見られています。しかも、昨年度よりもそれぞれ良くなる見通しになっているのですが、今のディスプレイの環境の悪さとか、あるいは半導体も特にメモリー中心に落ちてきている中で、こういった予想にされている背景につき、足元の動きと合わせてご解説お願いできますでしょうか。

A: ディ스플레이の足元の状況ですが、上期につきましては、需要の減速に加えまして、各パネルメーカーでの部材、あるいはパネル在庫の過剰化という中で在庫調整によって、大幅な生産調整を行ってまいりました。下期につきましては、まずは在庫の消費が進行して、回復基調に転じると見ております。特にその回復の中でも、光 IPS につきましては、他モードからのシフトの加速、これが進行するという中で、好調に転ずるとというのが現時点の予測でございます。

半導体メモリーの価格下落に関しましては、リスクとして承知しておりますが、お客様からの短期フォーキャストが下がっていないことと、確定的な情報は得ていないといったところで、大きな生産調整はないという形で想定をしております。

Q: 特にロジック向けも変調なく好調が続くとみていますか。

A: はい、そのように想定しております。

Q: 次に農業化学品ですけれども、かなり好調が続いていますが、環境として特に変調はないのか。中国のグリホサートの価格は少し下がってきていると思うのですが、農業化学品の来年度の方向性も含めてコメントをお願いできますでしょうか。

A: まず、グリホサート関係でございますが、確かに中国製造のジェネリックの価格が一時よりは下落しつつありますが、それでも以前の価格から比べてかなり高い状況でございます。私どものラウンドアップに関しましては、まだ価格的にも脅威は今のところはないと見ております。

また、来年度の農薬の状況に関しまして、現時点でコメントするのは非常に難しいですが、グローバルではまだ旺盛な穀物需要が続くと見ておりますので、世界的な農薬市場成長は少し鈍化するかもしれませんが、拡大傾向にあると見ております。

<質問者 2>

Q: まず一つ目ですが、機能性材料の上期から下期の製品別の売上高推移を教えてください。サンエバーであればモード別、あと半導体であれば ARC、その他材料という形で教えていただけたらと思います。

A: HonH ということですね。まずディスプレイでございますが、サンエバーにつきましては、すべてのモードで増収という想定です。このうち率として伸びが大きいのは、ラビング IPS、光 IPS、VA という順序になっています。それから半導体も上期対比で申し上げますと、ARC や多層材料、その他新材料それぞれで約 10%の伸びを想定しております。尚、ディスプレイは半導体よりも高い伸び率を想定しています。

Q: ラビング IPS のところで伸びが大きい背景を教えてください。

A: これは特に上期がかなりダウンサイドに振れたということもありまして、そこから回復を見るという意味です。金額の増減としてはそれほど大きくはないわけですが、率としては先ほど申し上げたような数字になるということです。

Q: 下期 2 カ月ほど経っていますけれども、液晶の販売に関しては回復傾向にあるということですが、もう既に足元はそういう兆候が出ているということでしょうか。

A: この 10 月から上期比で回復基調に転じているという状況でございます。

Q: 二つ目ですが、今回固定費で、8 月業績予想に対して下期で多く見積もっていますが、機能性材料の下期固定費の 6 億円上ぶれと、農薬の下期固定費 5 億円上ぶれの背景を教えてください。

A: 機能性については事業部のところで、例えば、様々な機器導入等による減価償却費の増加がございます。それから工場でも、設備投資関係で積み増しがございます。その他、非常に細かい数字の積み上げになっております。なお、これは上期から下期へ費用が先送りになったということではありません。

また、農薬につきましては、この下期、当初想定していたよりも、活動が徐々に増えていくことを想定して、旅費交通費・広告宣伝費などを織り込んでいるというのが、一つ大きなところとしてございます。更に、インドで NBR の工場建設をしておりますけれども、この関連で若干固定費が増えているところもございます。

<質問者 3>

Q: 1 問目は農業化学品の下期見通しとして、46 ページを拝見しております。まず、フルララネルに関しまして、上方修正をされているかと思いますが、直近の Zoetis のカンファレンスを聞いていますと、ノミ・ダニ除去薬について、サプライチェーンのチャレンジが制約になっているという話をしていたのですが、一方でメルクの決算は堅調に見えました。御社のサプライチェーン上では、特に供給制約の問題は生じていないと考えていいのか、確認させていただきたいです。

また農薬に関して、3 カ月前のお話ですと、国内での値上げの交渉が例年よりは少し時間かかっているというお話がありましたが、それでも 12 月頃から新価格になるかと思えますので、この手応え、また今回の計画の折り込みについてコメントをいただけますでしょうか。

A: まずフルララネルの件でございますが、メルクの業績も堅調に推移しておりますので、様々な外部要因もあるのかもしれませんが、現在当社のフルララネル販売に関しては堅調に推移するというふうに見てございます。

もう一つ、値上げに関しては、当社、或いは同業他社も含めて、原体あるいは原材料、中間体、原燃料等々のあらゆるコストが上昇している現状とその要因について丁寧に説明をしております。実際、12 月からの価格に関しましては、一定程度当社の現有製品に価格転嫁ができたと見ておりまして、下期の数字はそれを織り込んでございます。

Q: 2 問目は、説明会資料 80 ページの調整額について、今回の修正の中身を拝見しますと、3 カ月前の計画ですと通期で 37 億円のマイナスだったのが今回 58 億円のマイナスと、21 億円の下方修正になっていますのでこの内容についてご言及いただけますでしょうか。

A: 確かに、主要 4 セグメント以外のところの数字の変動もございました。企画本部、またそれ以外にも、連結消去額等々で、期初の年初予算で見ていたものでは、なかなか見通せなかったところもございまして、見通しについて少し精緻化したところもございます。結果、このような数字として今回お示しをしているということでございます。

Q: 何か 3 カ月前に比べて、戦略的に経費を積みそうというお考えが出てきているのか、少し経営戦略上の変更などが起きているのか、少しコメントいただけますか。

A: 特に何か大方針を転換したということはありません。集計の結果でこういった数字になっているとご理解いただければと思います。

<質問者 4>

Q: 1点目はフルラネルの下期の見通しに関しまして、前回業績予想比で原薬もロイヤリティに関しても、どちらも上ぶれ方向ということですが、これは為替を除いた数量ベースでも前回から修正があるのか確認させていただきますでしょうか。

A: 下期の予算比について、原薬の出荷の数量が年初の見立てよりは少し増えるというところを想定しておりますし、また為替メリットにつきましても、多くはないですが少し見ているというところはございます。

Q: ペット用医薬品市場の成長率に関してはやや鈍化してくる可能性も否定はできない状況かと思ひまして。特に冬場はペット用医薬品不需求期に入ると思ひますし、また、在庫管理に関しては、過去の在庫調整問題の経緯も踏まえまして、メルク側も慎重になっていると想像しているのですが、その中で少し引き合いが増えているというのはどういったところが背景にあると考えておけばよろしいでしょうか。

A: 当然メルクサイドとのコミュニケーションの中から、当社で妥当な想定をしているということでございます。彼らのほうでの数字を前提とした上で、当社なりの見込みも入れまして、今回の数字になっているというふうにご理解いただければと思ひます。

Q: 在庫水準に関しては、特にそこまで増えてない、適正な水準ということで大丈夫そうでしたでしょうか。

A: ご理解の通りでございます。

Q: 2点目は、半導体材料の下期の見通しに関しまして、こちらも前回の想定から、今回の想定の変化という観点ですけれども、数量の前提に修正があるのか教えてください。可能であれば製品別にお伺いしたいと思います。

A: 半導体のところで年初予算比で下期は数量でどうかでございますが、ARCのところは数量としては、ほぼ当初予算通りで、若干下回るかもしれませんが、非常にマージナルな範囲で若干の数量の減少。それから、多層材料は若干の上振れを見ております。また、EUV-ULにつきましても、年初の下期予算から10%強数量の上ぶれを見ていたるところがございます。

Q: ARCの若干の数量下ぶれというのは、最近の半導体業界の動向を踏まえて、少しリスクを織り込んでいた程度の話なのか、あるいは実際に御社のお客さんからの引き合いの下ぶれが起きているのか、コメントいただければと思ひます。

A：稼働の想定が、下期では年初想定より少し下がるといったところになります。今、危惧されているような大きな生産調整があるわけではなく、若干コロナの影響で、中国サイドで少し思ったほど稼働が上がってこないといったところが要因になっております。

以上